

GREEN

全農長野県本部情報 グリーンリーダー

Rader

2026

6

Vol.565



重点事業方針

A-Policy

生産販売部 果実花き課の取り組み

生産販売部 営業課の取り組み

・中期事業計画(令和7～9年度)初年度における進捗状況について 4～6

A-Reports

・長野県産レタス類 出荷スタート京浜地区で推進会議・量販店フェアを実施 7

・万代で「長野県産レタス類 切り替えフェア」を実施 7

・京都食肉市場(株)にて「第38回信州和牛枝肉共励会」開催 8

・令和8年度 新採用職員紹介 8

・長野県スポーツ協会に長野米など寄贈 10

・JA全農長野の事業現況 10

・6月のラジオ番組表 10

・編集後記 10



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

果実花き課

生産販売部 果実花き課の取り組み
令和8年度の重点推進事項について重点目標
Ⅰマーケットインによる生産基盤強化と
系統集荷販売対策

目標1・リンゴ販売数量の確保

課題(1) 生産量・系統集荷量・販売数量の減少

課題	対策	令和8年度目標
①生産実態の把握と生産性向上、集荷対策	①生産計画調査と関係機関との連携による講習会等の生産性向上対策を実施する ②生産状況を把握し、生産傾向に応じた出荷販売企画やアイテム作成を販売部署と協議する(売り先確保) ③各種会議や果樹研究会・青年部等との共同販売企画を実施する ④晩生種リンゴの集荷目標を設定し、販売企画とセットでJA及び生産者へ系統出荷の誘導を実施する	①リンゴ販売数量 300万ケース/10kg 114億円 (内訳) ・シナノリップ15万ケース、 つがる55万ケース ・シナノスイート45万ケース ・秋映25万ケース ・黄色品種30万ケース ・ふじ112万ケース ・その他18万ケース ②リンゴ苗木供給目標10万本 (うちフェザー苗5万本) (内訳) ・着色系つがる・着色系ふじ・ 秋映7割 ・黄色品種1割 ・その他2割
②高温による着色不良・品質不良、ロスの増加	①優良品種への改植をすすめる ・優良着色系統、黄色系品種の推進 ②遮光資材・多目的ネット・灌水設備の導入推進、モデル圃設置による検証をすすめる ・生産振興部・生産購買部と連携した推進・うまくだ推進部会との連携及び補助事業活用推進	
③系統販売への理解醸成と集荷量の向上	①フェザー苗の供給を起点にした巡回・営業指導により、生産者とのつながりを強化し、集荷につなげる ②若手生産者による宣伝企画の設定(販売メニュー提案、イベント応援)と長野県リンゴのPR共有の一体化を進める	
④売場確保のため営業強化と情報発信	①集中宣伝会を実施する(早生種一回、中生種一回、晩生種一回で延べ300店舗以上) ②りんご三兄弟®を活用したSNSによる情報発信を行う	

目標2・モモの生産振興

課題	対策	令和8年度目標
①モモの生産量維持・拡大	①生産振興部と関係機関と連携した生産振興検討を行う	①検討会・他産地視察・情報交換会の実施 ②モモ販売数量 100万ケース/5kg 35億円

目標3・ぶどう三姉妹®のブランド・認知度向上

課題	対策	令和8年度目標
①消費の維持・拡大につながる企画(ブランド力向上)	①ぶどう三姉妹®を起点としたイベント、企画を強化する ②ぶどう三姉妹®のロゴ・キャラクターの活用による認知度向上に努める ③各種メディアや新たな宣伝手法の検討による継続的なPRを行う	①SNS(パシファルなど)を活用した情報発信 ②ぶどう三姉妹®販売数量 190万ケース/5kg 190億円
②他産地との差別化	①シャインマスカットおよびクイーンルージュ®の品質安定、品質基準の統一を目指す	①統一規格の検討

目標4・トルコギキョウ販売数量の確保

課題(1) 夏場の暑さによる生産量の減少・品質低下・ロス発生、生産性の向上

課題	対策	令和8年度目標
①土壌病害によるロスの増加	①土壌消毒の徹底による数量拡大を図る ②抵抗性品種の紹介・導入を行う	①トルコギキョウ販売数量 600万本 9.3億円
②夏場の品質低下(花傷み、短茎など)	①遮光・遮熱資材の導入推進を行う ②生産購買部との連携、補助事業活用による推進を行う	②委託育苗 800トレイ ③定植率(定植本数/播種量)・切花率(出荷本数/定植本数)のデータ収集。次年度計画策定
③切り遅れによるロス・成苗率の低下	①適品種・適正量の播種、本会委託育苗の導入推進を図る ②作業遅れにならないための播種計画提案のため、実績分析を実施する	

目標5. アルストロメリア販売数量の確保

課題(1) 県内JAの技術レベル高位平準化

課題	対策	令和8年度目標
①切花率等の調査によるJA別課題の明確化 ②JA技術員の栽培指導レベル向上	①全戸巡回による圃場台帳の作成と生産者別課題を抽出する ④JA持ち回りでの統一栽培講習会・巡回指導会を開催する	①アルストロメリア販売数量 1,500万本 21.3億円 ②花き 種苗実績 21.5億円 確保

課題(2) メーカーと連携した育苗・種苗確保と、新品種の試作による優良品種の選定

課題	対策	令和8年度目標
①優良種苗確保のための継続的な取り組み ②生産性の高い品種の導入推進	①ヨーロッパの育種家（フリーダー）・種苗会社を訪問し、有望品種を選定する（R8.5/14.24、オランダ・イタリア） ②試作圃場での優良品種選定と展示公開による生産者の作付品種検討を行う ③種苗品種説明会を開催する ④個別相談会による作付け拡大を図る	同右

課題(3) 新たな販売手法の開発

課題	対策	令和8年度目標
①アルストロメリアの認知度向上と購入のきっかけづくり ②様々なアプローチ方法で店頭売場づくりを支援する ③体験型のフェア販促企画	①「アルストロメリア月間」を設定し、店舗での販促を強化する ②販促物・資材等の作製 ③店舗でのセルフマーケティングブースでの試験販売を企画する ④銀座NAGANOでの販売・PR企画を行う ⑤各種販促企画や青年部・若手生産者応援によるフェアを開催する	同右

重点目標Ⅱ
生産者手取り最大化

目標1. 果実輸出額の維持・拡大

課題	対策	令和8年度目標
①アジア圏での果実販売強化	①台湾・香港・シンガポールでの取扱いを拡大する ②宣伝会の開催、商標・キャラクターの活用による差別化を図る	①R8年度目標 果実23億円 ・ブドウ15億円 ・モモ3.5億円

重点目標Ⅲ
花き広域営農技術員の設置および花き共計販売に向けた検討

目標1. 広域営農技術員の配置

課題(1) 広域営農技術員の配置検討

課題	対策	令和8年度目標
①各JAにおける花き事業の取扱額減少による人員削減 ②JA技術員の育成・指導 ③ベテラン技術員の技術継承	①生産基盤の維持、品質確保対策を目的とした広域での検討会を開催する ②営農技術員が広域指導できる体制を検討する ①営農指導者会議 花き専門部を中心とした活動を行う ①技術審議役・専門役を中心とした技術員への指導・サポートを行う	①中信3JAでの合同技術員研修体制づくり ②花き広域技術員（東信地区以外）の配置

課題(2) 花き事業における共計販売体制の検討

課題	対策	令和8年度目標
①共計販売体制の検討	①品目別に共計販売の優位性があるものを検討し、今後の可能性を探る	①共計販売の可能な品目の検討

目標2. 生産振興品目の拡大を目的とした、生産振興部との連携による県本部生産農場の検討

課題(1) 生産振興部と連携した生産農場の検討

課題	対策	令和8年度目標
①品目の検討と経営モデルによる試算 ③経営品目・作型等の検討を行う	①生産振興部と検討・協議を行う ②品目別経営実態調査と経営手法を検討する ①収支等のシミュレーションを作成。生産農場の実現可能性を判断	

営業課

生産販売部 営業課の取り組み

■令和7年度販売経過

J A全農長野営業課では、様々な業態の取引先（量販店、生協、加工・業務用実需者）に対し、J Aの協力を得ながら既存取引品目の維持・拡大とともに新規顧客の開拓をすすめてきました。

取引先との商談を通じ生産状況に応じた企画提案を行うとともに、令和7年度は降雹被害を受けた農産物の付加価値販売や系統共販対策として集荷拡大に向けた取引などの提案も行い、生産地の努力に見合った販売価格の実現と安定販売に向け取り組みました。

令和7年度の売上供給高は、146.6億円（前年対比97%）となりました。

■令和8年度の重点取組事項

1. 生産者手取りの最大化に向けた営業・販売力の強化

- (1) 積極的営業展開により既存重点顧客および帳合先との関係強化し、総合品目供給に向けた取引量および取引品目の拡充を図り、事業計画160億円の達成に向け、

成に向け、営業力を一層強化します。

- (2) 既存の流通ルートにこだわらず新規優良顧客の開拓を行い、産地および取引先のメリットを創出します。

- (3) 実需者への安定供給のため、市場流通も含めた多様な供給ルートを検討します。

- (4) 需要変化や多様化する小売形態へ対応するため、実需者の要望を的確に把握し、柔軟かつスピーディーな業務推進および販売促進活動を行います。

- (5) 産地に対する直販流通への理解促進を図り集荷力を強化し、顧客要請に応じられる商品供給力を高めます。

2. 商品開発力・提案力強化による販売拡大

- (1) 既存委託取引先との連携強化による、産地パッケージ商品等新規創出します。

- (2) 県産加工製品の開発に伴い、商流・帳合機能を発揮します。

3. マーケティング情報に基づく生産販売提案の取り組み強化

- (1) 県本部内にも情報共有（連携）を図り、J A対応を含めより円滑な取引の実践と営業推進を行います。

- (2) 営業活動により得られた情報に基づき、新規品目・新規規格・商品企画の提案と供給ルートを開発します。

- (3) 生産振興部ならびに関係部署と連携し、需要に応じた品目の生産振興と産地発信による品目提案を進め、産地開発と商品提案力を強化します。

4. 集出荷・輸送・荷降の効率化、生産コスト上昇対策

- (1) 直販青果物輸送における課題に対し、取引先への要請を含めた改善対策を進めます。

- (2) 調整保管・配送機能等を具備する取引先と連携し、輸送効率化に向けた研究・実践を行います。

- (3) 生産コスト抑制に向けたリパック品等のアイテム整理や容

器の効率化、適正化を研究・実践します。

5. 債権管理の徹底

- (1) 請求・精算、代金回収まで一連の業務を担う課であることの認識をもち、債権管理を徹底し営業推進を展開します。

■令和8年度事業計画

単位：千円、%

大 品 目	令和8年度計画	令和7年度実績	実績対比
直 販 果 実	2,730,000	2,509,826	109
直 販 野 菜	5,530,000	5,399,205	102
直 販 き の こ	5,200,000	4,744,425	110
直 販 花 き	126,000	122,673	103
（直販合計）	13,586,000	12,776,129	106
加 工 製 品	240,000	235,491	102
全 農 青 果 C	2,679,000	2,277,465	118
直 販 そ の 他	5,000	263	1901
分 量 振 替	△ 510,000	△ 630,497	81
合 計	16,000,000	14,658,850	109

中期事業計画（令和7～9年度） 初年度における進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の初年度にあたり、行動計画の実践によりJA支援に取り組むとともに、JAおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組みました。

Ⅰ. 中期事業計画における基本目標 令和8年3月末時点での総括

その1 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大

- (1) 担い手推進センターを起点に、JAと連携した現地訪問や個別提案を強化し、担い手のニーズと課題の共有を進めました。また、果樹・野菜を中心に、栽培技術の提案や現地指導等を通じて、生産安定と品質向上に向けた支援体制の充実を図りました。
- (2) トレリス、多目的ネットや高温対策資材の実証・普及、排水対策機械の導入など、気象変動を踏まえた生産安定化対策を推進するとともに、DXを活用し、データに基づく営農指導の基盤整備を進めました。

その2 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 生産コスト上昇を踏まえた取引価格の見直しや条件改善を図るとともに、新品種導入、業務用・加工対応、輸出拡大などを通じ、販売チャネルの多様化と系統集荷率の向上に成果を上げることができました。
- (2) パレット輸送や物流効率化に対応した包材の実証・導入、軽量肥料や低コスト農機モデルの推進により、生産・物流コスト低減に向けた取り組みを進めました。需要結集資材や担い手向け資材の拡大を通じ、組合員ニーズに応じた提案ができました。

その3 JA経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) 石油・ガス・でんきを一体的に提案するホームエネルギー事業を推進し、SSS協同経営におけるキャッシュレス対応やJA事業との連携により顧客のリピーター化を進めました。数量確保とサービス向上の両立に取り組む、地域の生活インフラ維持に貢献しました。
- (2) eコマースの拡大、新規くらし支援サービスの企画・導入を図り、組合員の多様化するニーズへの対応を進めるとともに、地域の活力創出につながる接点の強化に取り組みました。

Ⅱ. 中期事業計画における取り組みの特記事項（令和8年3月末時点での総括）

その1 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、JAと連携し地域の担い手を訪問し、個別のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 挙げられた要望や課題は、事業所と本部3部門（生産振興・生産販売・生産購買）で共有、協議した回答や解決案を提供し、JA・担い手と一体となり課題解決に取り組みました。
- (3) 令和7年度は132件（前年108件）の担い手を訪問しました。また、訪問回数累計は319回と前年の183回を大幅に上回り、積極的な訪問、提案を行いました。

その2 アグリプラットフォーム（農業生産管理に関わるDX）の取り組み

- (1) 全体進捗
関係部署とともに開発進捗会議を行い、県本部方針やシステム別の開発概要、データ分析・可視化に役立つBツールの活用等について協議しました。個別システムについては「JA全農長野 中期3カ年DXビジョン」に基づき組成した各プロジェクト・委員会にて取組を進めました。
- (2) 各システムの進捗状況

情報発信	圃場カルテ	青果物販売管理	土壌診断	米穀出荷管理	肥料農薬カタログ
全JAで稼働	アスパラJAりんご高密植1JAで稼働	3JAでテスト稼働	全JAで稼働	7JAで稼働	全JAで稼働
組合員マイページや「あい作」との連携、閲覧記録確認・広告掲載機能に加え、取引先からの組合員向け情報の提供も開始しました。	アスパラガスのJA利用拡大を進め、りんご高密植栽培向けのシステム開発を行いました。また、「あい作」栽培管理システムとの連携機能も具備し、正確なデータに基づいた営農指導を提供できる環境を整備しました。	3JAにおいて本格導入を前提とした機能確認のテスト稼働を実施し、集計・入力作業の効率化に繋がる効果が確認できました。	圃場特性と過去の知見を踏まえた施肥・栽培管理の高度化をねらい、圃場カルテシステムとの連携開発を行い、土壌情報と営農履歴を一元管理する基盤を構築しました。	AI・OCRとの連携機能の開発を行うとともに、組合員マイページとのシングルサインオン連携の構築を進めました。	店舗用POPデータ・格納機能の開発を行うとともに、JAのWeb資材店舗における本システムを活用した商品登録は、2JAが利用しました。

Ⅲ. 各事業別 令和8年3月末進捗状況

【生産振興部】

実行具体策	7年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進			
(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援		メニユー提案	担い手への種苗等の推進や栽培技術の提案
(2) りんご高密植栽培の普及拡大	520ha	面積520ha 現地指導150回 研究会41回	果菜類及び果樹の栽培技術提案や品質向上に向けた提案を進める。
(3) JA、生産法人と連携した試験栽培や実証圃の設置による生産振興	実証圃設置5圃場	アスパラガス2圃場 なす1圃場 きゅうり1圃場 春玉ねぎ1圃場	生産安定・課題解決に向けた現地指導・栽培研修会・研究会を実施した。引き続き技術指導を継続実施する。
2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害対策の推進			簡易施設栽培、品種試験や新たな栽培技術の実証試験を実施。実証結果を踏まえ、普及拡大に向けた提案を行う。
(1) りんご高密植栽培のトレリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	現地検討普及推進	輸入トレリス2ヶ所 多目的ネット7ha	災害対策にトレリスの現地実証を4ヶ所設置、輸入トレリス2ヶ所設置しコスト低減効果の検証を進めている。また、高温対策資材の普及推進を進める。

(2) 生産安定に向けた野菜の施設化推進	導入5ヶ所	高温対策 2ヶ所 きゅうり施設化 8ヶ所	果菜類のモデル圃場を設置し、高温対策を目的とした資材の実証試験を実施。また、きゅうり簡易雨よけハウスの推進を実施。
(3) 専用機器を活用した排水対策の実施	実施10ヶ所	デモ実演3ヶ所 排水対策機械貸出 7ヶ所	平高畝成型機「ベッドマイスター」による排水対策技術の推進と貸出を開始。「カットブレイカー」含め利用推進を目的に排水研修会を実施する。

3. 農業DXの普及推進

(1) 圃場カルテの普及拡大	導入5J A	アスパラガス運用 5J A りんご高密植栽培運用 1J A	圃場カルテシステム（アスパラガス）を5J Aで運用・新規契約した。また、りんご高密植栽培でも圃場カルテの開発及び運用を開始。
----------------	--------	--	--

4. 県本部種苗供給体制の強化

(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	130万本	141万本供給	良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2) りんごフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	6万本	5万本供給	歩留まり向上のための生育管理を継続。

【生産販売部】

実行具体策

7年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化

(1) 予約価格の適正化	取引の50%以上の条件を改善	改善達成率 野菜 73% きのこ 67% 果実 57%	コスト上昇試算表に基づく取引価格値上げ交渉と取引条件の改善。
(2) 輸出拡大と加工・業務対応の強化	①輸出額22億円 ②新規2件	①輸出額18.2億円 ②新規3件	①既存取引の維持と新規輸出先の検討 ②加工メーカー・コンビニとのコラボ商品（カットサラダ・惣菜・漬物など）、「全農長野」表示商品の開発継続と新規提案。

2. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立

(1) パレット輸送体制の確立	新規2J A	新規1J A	りんご専用パレットは新規利用産地・新規供給先への運用に向けて継続検討。レンタルパレットは輸送・運用のトータルコストを試算し利用を進める。
-----------------	--------	--------	--

3. 系統集荷率の向上

(1) 生産販売強化品目の設定と増産	①300万ケース ②670万本 ③1,400万本 ④4,000t ⑤9,700t	①281万ケース ②514万本 ③1,553万本 ④8,623t ⑤9,422t	①集荷対策および生産振興の強化。 ②種苗推進の実施。 ③全県統一栽培講習、全戸巡回指導の実施。 ④特定実需者事業の活用による顧客確保。 ⑤はくさい・レタスからの転作誘導品目としての推進強化。
--------------------	--	--	---

(2) 長野米集荷推進の実施と販売力強化	68,000t (当年度200t)	57,001t (333t)	追加精算金の検討と需給状況に合わせた買取の継続。
----------------------	----------------------	-------------------	--------------------------

4. 広域営農技術員の設置

(1) 広域営農技術員の設置（花き）	検討	検討	各地区の実情に応じた広域指導体制構築検討。
--------------------	----	----	-----------------------

5. 青果物流通のデジタル化

(1) 青果物販売管理システム稼働	7J A	試験運用 3J A	利用拡大に向けたJ A稼働推進の強化。先行J Aでの事例積上げと他地域への展開。
-------------------	------	--------------	--

【生産購買部】

実行具体策

7年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1) 低コスト・新形状段ボールの開発・普及	50万箱	3万箱	新たに2品目で導入。ぶどう組箱輸送試験継続実施と導入推進。
------------------------	------	-----	-------------------------------

2. 青果物輸送における物流課題解決

(1) パレット規格に適合する包材の開発	実証・組織合意 (8品目)	2品目実証・組織合意	未実施品目の試験実施と組織合意を進める。
----------------------	------------------	------------	----------------------

3. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1) 原料・成分見直しによる低コスト銘柄の開発	3銘柄	3銘柄	3銘柄新規商品化。今後商品化予定の銘柄の準備を進める。
(2) 担い手直送規格農薬の普及拡大	6,300ha	6,754ha	水稻箱剤および除草剤の受注拡大で増加。
(3) 需要結集マルチの普及拡大	160ha	344ha	J Aからの要望の強かった白黒水抜き・薄膜マルチを追加し受注拡大。次年度に向け規格集約を進めコスト低減を図る。

4. 担い手への提案型推進

(1) わたしの肥料受注推進	5,300t	5,551t	受注・製造・物流の効率化を進める。
(2) 軽量肥料Lightシリーズの開発普及	2,400t	3,611t	適正施肥やコスト抑制のニーズに対応した銘柄の取り扱いが伸長。

5. みどりの食料システム戦略の取り組み

(1) 国内肥料資源を活用した原料・製品の拡大	800t	759t	堆肥等を活用したB B肥料製品の取扱い拡大提案。
-------------------------	------	------	--------------------------

6. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計13型式	累計14型式	12月開催の第二回推奨委員会にて11型式追加を決定。
(2) 共同購入コンバイン（低コストモデル）の推進	5台	10台	展示機を活用し推進強化を図った。生産遅延発生分の納品調整を進める。

7. 県域農機整備事業の体制強化

(1) 県域整備拠点による系統整備体制の強化	堀金2390台	堀金3155台	コンバインの点検整備の増加。
------------------------	---------	---------	----------------

【畜産酪農部】

【くらし支援部】

実行具体策

7年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持確保

(1) 肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6,450頭	6,067頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持を図る。県本部生産基盤対策による県外販売や、輸出の拡大など手取り確保に向けた取り組みを強化する。
(2) 肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	59,000頭	55,029頭	信州産肉豚確保に向け、行政と連携した衛生検査の強化による農場疾病対策および生産性向上・暑熱対策の取り組み強化を図る。
(3) 生乳の出荷量確保	80,000t	76,522t	酪農家戸数の減少、夏場の猛暑による乳量低下の影響あり。県本部生産基盤対策事業の活用による基盤維持を進める。

2. 信州産ブランドの強化

(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2,400頭	2,768頭	ブランドの認知度向上のため、県内外での信州フェアの開催、協賛および輸出事業者との連携強化による和牛輸出拡大に取り組み有利販売を図る。
(2) 信州プレミアム牛肉の輸出強化	230頭	234頭	県主催の海外レセプションへの参加、海外バイヤーとの意見交換や農場視察を強化することでブランドイメージの強化を図る。
(3) 信州産生乳の消費拡大イベントおよび各JA祭への協賛	6回実施	8回実施	乳量が増える秋口や不要期となる冬場への消費拡大PRの実施、理解醸成活動の取り組みにより牛乳消費拡大を図る。

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1) 素子豚の安定供給	23,000頭	20,073頭	SPF豚繁殖センターの生産体制の安定化、生産管理および衛生対策強化による出荷頭数の確保および肥育事業の銘柄豚販売の有利販売に向けた協議を進める。
(2) 生乳の出荷量確保	2,100t	1,917t	搾乳牛の頭数確保および1頭あたり搾乳量の確保に向けた飼養管理の強化を図る。

4. 新たな県産食肉流通体制（代替策）の構築

(1) 新たな流通体制【荷フリ】、および県検討会議への報告、行政支援要請	移行計画策定・合意	協議	食肉処理施設の荷フリの確定および輸送方法の決定 影響緩和策の方向決定
--------------------------------------	-----------	----	---------------------------------------

5. 畜産酪農センターの機能整備

(1) 中信畜産酪農センターの最適な運営体制の協議と方向付け	協議	継続協議	センター加入JAとの課題検討策の協議・検討を進める。
--------------------------------	----	------	----------------------------

実行具体策

7年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 石油取扱数量の確保

(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	2502,000kℓ	244,777kℓ	県下統一対策を実施し系統結集を強化するとともに、ENEOSアプリ・ENEkey会員獲得に取り組み。引き続きENEOSアプリ等の推進により顧客の固定化を図る。
(2) キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化	(協賛含む)	(協賛含む)	

2. SS協同経営販売数量と収益の確保

(1) JAらしいSSづくりによる顧客囲い込み	64,000kℓ	64,072kℓ	A・コープ店舗とSSが連携したJAらしい相互送客イベント（2回）に加え、全SSで独自規格を実施し、顧客囲い込みを図った。8年度もA・コープ連携企画を実施予定。
(2) SS独自規格による来店促進と収益確保			

3. ガス取扱数量の確保

(1) JA別マスタープラン実践による小売事業強化	14,500t	14,759t	全JAでマスタープラン検討会を開催し、営業・保安等の行動計画達成に向け協議。8年度マスタープラン行動計画に基づき営業推進等の行動計画進捗管理を強化する。
(2) 顧客接点活動の実践・強化による顧客防衛			

4. ホームエネルギー事業の拡大

(1) JAでんき取扱いの拡大	低圧供給 累計5,000戸	低圧供給 累計2,902戸	JAでんき取扱を10JAで展開し、LPGガスとのセット割引とあわせた推進を展開。引き続き、各推進施策・インセンティブを活用し推進を強化する。
-----------------	------------------	------------------	--

5. 自動車取扱台数の確保

(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,500台	1,974台	JAハイゼットを中心とした営農車のPR実施。8年度は県下統一の営農車キャンペーンを実施し台数拡大を図る。
-----------------------	--------	--------	--

6. eコマース事業の拡大

(1) JATAタウン出店者・出品数の増加による取扱高拡大	280百万円	271百万円	JA・既存出店者との情報交換により新規出店者9件獲得。8年度は出店者への個別訪問による販促フォロー体制強化、事業所との連携によるJA出店強化を図る。
-------------------------------	--------	--------	--

7. 新規事業の構築と展開

(1) 高齢者生活・家事支援事業等の構築と展開	7事業（商品）	5事業（商品）	商品研修会開催とJA個別協議により5事業（商品）取組開始。JAの体制に沿った新規取組を行うため関係取引先との協議を進める。
-------------------------	---------	---------	---

8. セレモニー施行件数の拡大

(1) ニーズに対応した葬儀サービス強化	共同運営葬儀 4,600件	共同運営葬儀 4,342件	死亡者数減に伴い葬儀施行件数は前年比96%推移（シニア前年並み）。小規模葬を中心とした件数確保に向けたPR強化を進める。
----------------------	------------------	------------------	--

(野菜きのこ課)

長野県産レタス類 出荷スタート 京浜地区で推進会議・量販店フェアを実施

長野県産レタス類の出荷開始にあたり、ＪＡ長野八ヶ岳、ＪＡ佐久浅間、ＪＡ信州うえだ、ＪＡ松本ハイランド、ＪＡ洗馬の５ＪＡが一堂に会し、５月８日（金）、京浜地区において重点卸売会社４社との推進会議を開催しました。

推進会議では、レタス類の生育状況や今後の出荷・販売動向について情報交換を行うとともに、資材や物流費などのコスト上昇を踏まえ、今年度の販売に対する協力をお願いしました。産地と卸売会社が課題と方向性を共有する、非常に有意義な会議となりました。

翌９日（土）には、都内量販店「オオゼキ」４店舗において「長野県フェア」を開催しました。当日はＪＡの部課長が店頭に立ち、長野県産のレタス、サニーレタス、リーフレタスのほか、えのきたけ、ぶなしめじなどのPRを行いました。

試食販売では「レタスときのこのオイスターソース炒め」を提供し、「レタスときのこの相性がとても良い」とお客様から高い評価をいただきました。関連商品をセットで購入されるお客様も多く、販売点数の大幅な伸びにつながりました。



葉野菜の主産地である５ＪＡ合同（オール長野）での取り組みは今回が初めてと

なりましたが、レタス類ときのこを中心に、長野県産農産物の魅力を多くの消費者に直接伝える貴重な機会となりました。

今後も関係機関と連携しながら、販売強化に向けた取り組みと長野県産農産物のPRを積極的に進めてまいります。

(大阪販売事務所)

万代で「長野県産レタス類 切り替えフェア」を実施

ＪＡ全農長野大阪販売事務所は５月９日（土）から１１日（月）の３日間、近畿圏を中心に店舗を展開しているスーパー「万代」の大阪府と兵庫県内の２０店舗で「長野県産レタス類 切り替えフェア」を実施しました。本フェアは、前段産地から長野県産への売り場切り替えを目的に毎年恒例で行っている取り組みで、レタス、サニーレタス、リーフレタスを対象品目として展開しました。

９日と１０日の２日間は、各日１０店舗ずつ計２０店舗に試食販売員を配置し、「レタスの塩昆布和え」を提供しました。試食は老若男女問わず好評で、特に親子連れのお客様からは「今日の夕食に作ってみたい」といった声も寄せられました。今年は母の日の時期と重なったことから、売り場では「母の日のごちそう」をテーマに訴求。華やかで賑わいのある演出により、多くのお客様に足を止めていただくことができました。

今後も大阪販売事務所では、産地と一体となり、長野県産野菜の認知度向上と旬の野菜の消費拡大を目指した取り組みを継続してまいります。



畜産酪農課

京都食肉市場(株)にて「第38回信州和牛枝肉共励会」開催

J A全農長野は4月20日(月)、京都食肉市場(株)で「第38回信州和牛枝肉共励会」を開催しました。

長野県内各地から選りすぐりの信州和牛36頭が上場され、セリ販売に先立って行われた枝肉審査の結果、J Aみなみ信州の吉川秀之さんが出品した去勢牛が最優秀賞に選ばれました(=表紙左上)。この入賞牛はロース芯面積129cm²、霜降り度合いを示すBMSナンバーは最高値のNo12、枝肉重量をはじめ歩留り基準値や品質の高さなど総合的に高く評価されました。

京都食肉市場(株)は小売店や専門店を中心とした購買者が多くいらっしゃいます。このため品質の良い枝肉は需要が高く購買層も多いため、注目の集まる最優秀賞となりました。

セリでは枝肉の評価を反映し、3,501円/kgで落札され、京都市の京都食肉販売(株)が購買しました。

また、上場された36頭全頭が信州プレミアム牛肉に認定され、このうち半数の18頭がBMSナンバー12という、出品牛全体のレベルの高さがうかがえました。さらに、昨年度から認定基準を高めた京都市場の認定する「京都食肉市場特選牛」に、最優秀賞牛が認定されました。

3月末以降、枝肉相場は堅調に推移しており、本共励会においても平均販売単価の高い共励会となり、一年のスタートとして好調な共励会となりました。

今後も畜産酪農課では、このような共励会をとおして、「信州和牛」「信州プレミアム牛肉」「信州アルプス牛」のさらなる認知度向上を図ると同時に、県内を中心とした牛肉の消費拡大に向け、販売促進に取り組んで参ります。

入賞者一覧(敬称略)

賞	J A名	生産者	品種・性別
最優秀賞	みなみ信州	吉川 秀之	黒毛和種・去勢
優秀賞	南信酪農協	中原 洋	黒毛和種・去勢
〃	松本ハイランド	長谷川昇司	黒毛和種・雌
優良賞	佐久浅間	GF山木牧場	黒毛和種・去勢
〃	ながの	(農)美雪ファーム樋口	黒毛和種・去勢

東京販売事務所

J A中野市産「シャクヤク」トップセールス開催



挨拶をする望月組合長

J A中野市は4月24日(金)、(株)大田花きでシャクヤクを中心とした「花きトップセールス」を行いました。5月10日の「母の日」に向けた花きの需要期に合わせ、同J Aが生産量日本一を誇るシャクヤクを中心に、品質の良さをアピールしました(=表紙下)。

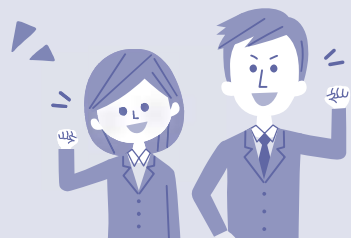
同J Aは今年度、産地PRと販売力を強化しようと「シャクヤク部会」と「花卉研究会」を一本化しました。J A中野市の望月隆組合長は「部会では、消費者から求められる「色」を研究しながら毎年生産を続けています。シャクヤクのほかトルコギキョウを主体とした各種切り花、枝物も生産を拡大していきたいと思っておりますので、更なるご利用・ご愛顧をお願いします」と挨拶し、産地をアピールしました。

全農長野東京販売事務所は今後も関係J A・事業所と連携し、県産農産物のPRに努めてまいります。

New face

新採用職員紹介

令和8年度の新採用職員を順次ご紹介します



生産販売部



果実花き課

みやざき さえ
宮崎 咲衣

花き担当として頑張ります！

はじめまして、生産販売部果実花き課の宮崎咲衣と申します。出身は千曲市です。

趣味は読書と散歩と博物館巡りです。最近、通勤中に読む本を選びに本屋さんに通うことが楽しみになっています。

花きに関してはまだまだわからないことが多く、日々勉強の毎日ではありますが、花き担当として一日も早く、長野県の農業に貢献できるよう精進してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

生産販売部



営業課
市場営業グループ

しおざわ みづき
塩澤 美月

りんごの花が咲いていました！

はじめまして、営業課市場営業グループの塩澤美月と申します。出身は伊那市です。

休日はのんびり散歩をしながら、気になるお店を探しています。また学生時代にバスケットボールをしていたので、試合の観戦をすることもあります。

果実担当として業務に取り組む中で、学ぶことの多さを実感する毎日です。ひとつひとつの経験を大切に積み重ね、信頼される職員を目指して精進してまいります。これからどうぞよろしくお願いいたします。

生産購買部



農業機械課

きざき ゆうた
木寄 悠太

共同購入コンバインに乗って撮りました！！

はじめまして、農業機械課の木寄悠太と申します。

出身は須坂市で、趣味はツーリングと温泉巡りです。最近、高校以来久しぶりにサッカーを再開し、練習や試合の翌日は筋肉痛に悩まされています。

農業機械についてはほとんど知識がありませんが、日々学ぶ中で、その進化と高性能さに驚かされるばかりです。

一日でも早く皆様のお力になれるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

畜産酪農部



畜産酪農課

たけうち としふみ
竹内 利文

市場担当として、皆様のお役に立てるよう努めてまいります！

はじめまして、畜産酪農部畜産酪農課の竹内利文と申します。出身は上水内郡信濃町です。趣味は料理やアニメ鑑賞で、家族や友人に手料理を食べてもらい喜んでいる姿を見ると活力が湧いてきます。

実家が兼業農家で農業が身近だったことから農家の皆様に貢献したいと思い、本会に入会しました。長野県中央家畜市場の担当をしています。

至らぬ点多いかと思いますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

令和8年度4月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		0	－	0
野菜種苗センター		35	104	92
生産振興部計		35	104	91
米	穀	2,340	98	121
果実	花き	263	91	146
野菜	きのこ	2,353	147	147
営業		423	91	99
生産販売部計		5,378	113	130
農業資材		829	117	112
肥料	農薬	1,534	108	105
農業機械		702	105	93
施設	住宅	454	426	497
生産購買部計		3,519	121	116
畜産酪農		2,538	87	88
三岳	牧場	2	10	7
S P F繁殖センター		22	77	82
八ヶ岳	牧場	20	81	90
畜産酪農部計		2,582	86	87
燃料・ホームエネルギー		2,395	116	102
S S 協同経営		652	119	87
くらし		604	103	101
くらし支援部計		3,652	114	99
長野県本部計		15,166	109	109

10 GREEN *Rader*



26th

JA農機&資材フェスタ 2026

どなたでも
入場無料

～ 次世代農業機械を
見て・触れて・体験する2日間～

7月17日(金)・18日(土)
9:00～16:00 9:00～14:30

開催場所 **エムウェーブ**
長野市オリンピック記念アリーナ

ご来場
プレゼント

数量限定
当日ご来場
のお客様に
トートバッグを
プレゼント!!



※画像はイメージです。

ご成約
プレゼント

当日20万円以上
ご成約のお客様に
記念品をプレゼント!!

農業機械を一堂に展示

最新
スマート農機

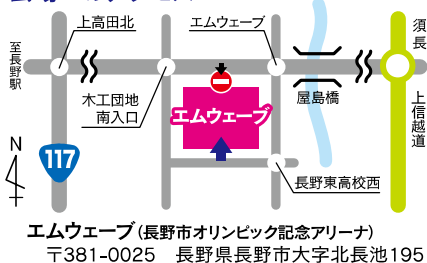
操作体験・実演

肥料・農薬
農業資材

中古農機
掘り出し物

県産農産物直売

会場へのアクセス



駐車場入口について

お車で越しの際、「木工団地南入口」
交差点から南ゲートに入場していただ
くとスムーズです。
南ゲート周辺は、工事箇所が
ございますのでご注意のうえ
ご来場ください。



●主催: 長野県農協生産資材事業推進協議会 ●後援: 長野県・JA全農長野



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



JA 全農長野ホームページ..... <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」..... <https://www.ja-town.com>

